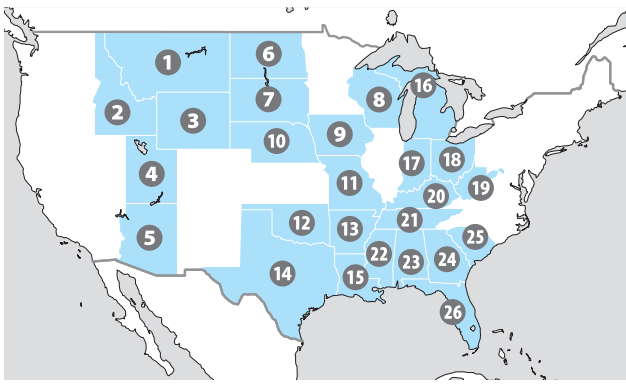


アメリカ最高裁「中絶禁止」認める



人工妊娠中絶が禁止になる可能性がある州(26) ※ガットマチャー研究所の調査を基に作成

アメリカ連邦最高裁判所は24日、州による人工妊娠中絶(手術などで胎児をおろすこと)の禁止などを認める判決を下しました。女性が人工妊娠中絶を選ぶ権利を認めた歴史的な「ロー対ウェイド判決」を49年ぶりに覆したことになります。バイデン大統領は24日の演説で「悲劇的な誤りだ」と判決を批判。今年11月の上院と下院の選挙や州知事選挙などで、大きな論点になりそうです。

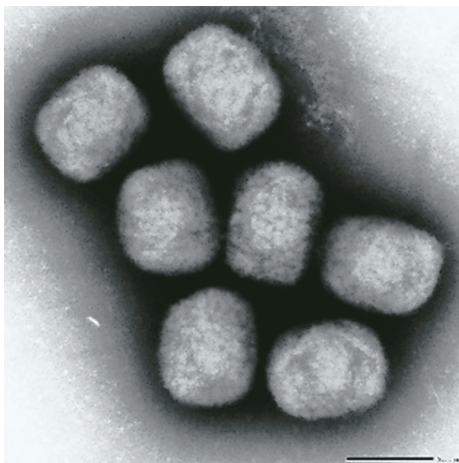
訴訟では、妊娠15週より後の中絶を原則禁止する南部ミシシッピ州の法律が憲法違反にあたるかどうか争点でした。これまでの判例では、胎児が母親の外で生きることができる時期(妊娠22〜24週ごろ)までは、中絶を選ぶ権利が認められていました。中絶支援の団体によると、今回の判決により、26州で中絶が禁止など制限される見通しです。

最高裁 逮捕歴削除を命令

建造物侵入容疑で2012年に逮捕された男性が、ツイッター上に残る逮捕記事の投稿を削除するようアメリカのツイッター社に求めた裁判で、日本の最高裁判所は24日、「逮捕から年月が経過し、公共の利害との

関わりは小さくなっていく」として削除を命じる判決を言い渡しました。ツイッター社の敗訴が確定しました。男性側は、逮捕当時のニュース記事を引用した投稿などが今も表示されるため、「更生を妨げられない利益を侵害されている」として14件の投稿の削除を求めていました。

サル痘「緊急事態」検討 世界保健機関



サル痘ウイルスの電子顕微鏡写真 真一国立感染症研究所提供

世界保健機関(WHO)は23日、動物由来するウイルス感染症「サル痘」について「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に当たるかどうかを検討する緊急委員会を開きました。24日以降に出される委員会の結果報告を受け、テドロス事務局長が判断します。緊急事態宣言になれば、2020年1月に新型コロナウイルスに出されて以来となります。

サル痘は、アフリカ中西部で流行を繰り返す感染症でした。これまでアフリカ以外での感染例はほとんどありませんでしたが、今年5月以降、ヨーロッパやアメリカを中心に広がっています。多くが軽症ですが、WHOによると6月15日までに42か国で2103人の感染が確認されました。ほとんどが、男性同士の濃厚な接触や、医療施設での感染とみられています。

日本ではまだ感染は確認されていませんが、国は検査体制を整える準備を急いでいます。

ニュースのことば

ロー対ウェイド判決

アメリカ連邦最高裁判所は1973年、中絶を憲法上の女性の権利としてアメリカで初めて認めました。原告(仮名)、被告の名前から「ロー対ウェイド判決」と呼ばれています。当時はアメリカ全50州のうち30州で中絶が禁止されましたが、妊娠後期を除き、中絶が認められるようになりました。

サル痘

アフリカ中西部で流行してきた感染症です。発疹や発熱、リンパ節の腫れなどの症状が出て、多くの場合は2〜4週間で自然に回復します。予防には、かつて人の間で流行していた天然痘のワクチンが有効とされています。

子どもだけのフリマかいさい



子どもたちだけで、みせをだして、ものをうりかいる「MOTT TAINAIキッズフリーマーケット」(ほけんの窓口グループ協賛)が東京都小金井市内で開かれました。写真。いえからもちよつた、ぶんぼうぐや本などをうりかいた、しげんやお金のたいせつさを学びました。

6 ニュース さいからの

名ぜりふ劇場

人生の哀歓に 寄り添う川柳

かみなりを まねて腹掛け やつとさせ

江戸時代に生まれた川柳は俳句に似ていますが、季語のような決まりごとはありません。ふだん使う言葉で、苦笑いするような生活の情景や喜怒哀楽から権力者へのからかいまで、あらゆる題材を自由に詠みます。語り伝えられる秀作は人生の名ぜりふです。これは有名な古川柳。裸ではしゃぎまわり、下着の腹掛けをいやる子に「へそをどるぞう、ゴロゴロゴロ……」と雷をまねる親。目に浮かぶようです。今は小学生川柳も人気です。皆さんも一くひねってみては。

劇場支配人 玉木研二 (毎日新聞客員編集委員)